

滋賀の文化情報誌

デュエット

# Duet

2013 夏 vol.110

特集

## 「近江巡礼 祈りの至宝展」が できるまで

新撰 淡海木間撰 54 打下古墳の被葬者

INFORMATION STATION

催し案内 2013 夏

MYBOOK

自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS

サンライズ出版の新刊案内





滋賀県立琵琶湖文化館 学芸員 上野良信さん



滋賀県立琵琶湖文化館 主任 井上ひろ美さん



取材／編集部 写真／辻村耕司

特集

# 「近江巡礼 祈りの至宝展」ができるまで

休館中の滋賀県立琵琶湖文化館が、元気です。

平成 20 年（2008）の休館以降、九州国立博物館、韓国国立中央博物館、三井記念美術館での収蔵品展を成功させ、今年 1 月からは静岡市美術館、仙台市博物館、島根県立古代出雲歴史博物館の 3 館で、巡回展「近江巡礼 祈りの至宝展」（主催・企画協力／毎日新聞社）がスタートしました。仙台展へ向けて準備が進む同館で、お話をうかがいました。

写真提供／滋賀県立琵琶湖文化館



←琵琶湖文化館と、その休館後に収蔵品展を催した博物館・美術館の位置  
●が巡回展「近江巡礼」開催館

## ■滋賀県立琵琶湖文化館

|       |                                                                                  |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 住 所   | 大津市打出浜地先                                                                         |
| 連 絡 先 | TEL 077 (522) 8179 FAX 077 (522) 9634<br>E-MAIL : biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp |
| 展示公開  | 平成20年(2008)4月1日より、滋賀県の財政難と施設の老朽化を理由に休館中                                          |
| アクセス  | JR 大津駅から徒歩20分／京阪石坂線島ノ関駅または石場駅から徒歩5分／名神大津ICより車で5分                                 |





# 日通の社員さんが、「琵琶湖文化館さんは、すごいものばかり持っています」と

——本日は、全国3館で行われる巡回展「近江巡礼 祈りの至宝展」について、企画の段階から携わっておられる毎日新聞社の佐々木千春さん、そして琵琶湖文化館の井上主任、上野学芸員のお三方にお話をうかがいます。

まず巡回展のお話の前に、新聞社の文化事業部とは、何をするとところか、一般にはあまり知られていないと思うのですが。

佐々木 新聞社は、大きくは記者部門と営業・管理部門の二つに分かれ、事業部は販売、広告、経理などとともに後者に属します。展覧会だけでなく、スポーツや音楽イベントなど、新聞社が後援、あるいは主催にづくイベント事業を担当している部署です。

——では、新卒採用でもかなり人気があるのでは。

佐々木 人気です。営業・管理部門への希望者の8割ぐらいが事業部に集中します。

——佐々木さんは、どういった分野を希望なさっていたのですか。

佐々木 私は平成16年(2004)秋に入社して、最初から美術館・博物館などでの展覧会です。学生時代には近世絵画を専攻し、長谷川等伯を勉強していました。それで、毎日新聞が平成22年(2010)に長谷川等伯展をやると知って受けたわけですが、えっ、入社時から6年も先ですが、どこから情報。

佐々木 10年越しの展覧会でしたから、私が高アルバイトで上野の東京国立博物館に勤めていた頃、耳にしまして。もともとは美術館の学芸員をめざしていましたが、募集は非常に少なく、難しい時代になっていま

したので……。

——別の職業で関われる道を見つけた。その長谷川等伯展も、こちら琵琶湖文化館との関わりがあったそうですね。

佐々木 はい、そうです。

上野 『花鳥図屏風』ですね。個人の方が寄託なさっている作品です。画自体に「等伯」という名前は入っていないので、作者はわからなかったのですが、優れた作品として、当館では常設で展示していたんです。それが等伯展担当の学芸員の目にとまり、本格的に調査されたんです。

等伯の割と早い時期の作品だということなのがわかりだして、等伯展の、いわば目玉といえるものになりました。

佐々木 そうです。長谷川等伯の40歳前後の作品であると、その展覧会で認定したかたちです。展覧会の始まる前に新発見の作品だということが、新聞紙面でも報道されました。

——以前当該で琵琶湖文化館を特集させていただいた際(97号、2008年)知りましたが、文化館は、近世絵画が、かなり充実している館でもあります。館蔵品の中には、判明していないだけで、まだまだすごい作品があるかもしれない。

井上 あるかも(笑)。研究は将来ずっと進んでいくものなので、いまの段階で判定してなくても、今後わかってくることもあるかと思っています。

上野 今度の「近江巡礼」展に出るものは、曾我蕭白の「楼閣山水図」(近江神宮所蔵)という重要文化財に指定されている作品があります。これなども、当館が昭和

36年(1961)に開館した頃からずっとお預かりしているもので、たびたび展示はしていたのですが、世間の目にはなかなかとまりませんでした。それが最近になって、蕭白が俄然注目され出して。

——「奇想の画家」というくくりで注目されるようになりましたかね。

上野 平成4年(1992)には重要文化財に指定され、もう引っ張りだこみたいな感じになっています。

——お話を戻して、佐々木さんと、こちらの文化館との関わりを見いきますと、等伯展から、どうつながっているのですか。

佐々木 長谷川等伯の作品返却の際に輸送業者である日本通運関西美術品支店の社員さんから、「佐々木さん、巡回展に興味ないですか。琵琶湖文化館さんは、すごいものばかり持っています。休館はしているけれども、本当に寄託品も館蔵品もすごいものばかりですよ」と言われまして。

——実際に美術品を運んでいる人から。

佐々木 そうです。そんなことって、まずないですよ。「どうして知っているの?」と尋ねたら、「これから九州国立博物館で展覧会をやるんです。僕らは、その梱包のお手伝いをしています」とのことでした。年間で実物にふれている回数は、彼らの方が断然上ですから、目は確かはずです。それに、新しくできたばかりの九博が注目した。しかも博物館・美術館1館だけの収蔵品で展覧会が成り立つなんて、本当に稀なことですよ。

実際、九博へ行って拝見すると、すばらしかったです。それは仏教美術に特化した展覧会でしたが、国宝や重要文化財が数多く並んでいて。

このレベルのものを新聞社主催の巡回展でもできたら、すごいことになると思い、

アポイントメントを取って、お話をうかがったのが始まりです。その段階でザッとした企画書は持っていました。

——その段階の企画書で、今回の近江巡礼展の内容はほぼ固まっていたのですか。

佐々木 当初の企画の段階では、私は仏教美術だけの展覧会を考えていました。すると、井上さんから、いや、当館には

## 3館とも、ひと月以内の即答で、これほど楽しいことはなかった

——社内では企画書を出されて反応はいかがでしたか。

佐々木 すごくよかったです。例えば長谷川等伯や狩野永徳といった作家でも、一つの企画をつくるのに5年から10年かかります。借用先も50〜60力所にわたり、例えば、借用先の一つのお寺さんが自前の宝物館で公開なさっているような場合、「いや、うちはこの時期にこれがないと困る」とおっしゃり、それを何年もかけて説得するといったことがあるんです。

——所蔵先ごとのスケジュール調整が難しいわけですね。

佐々木 ですから、いま、地方の公立館で仏教美術の、しかも国宝や重要文化財が並ぶ展覧会を開催するとなると、ものすごいお金と時間がかかります。まして巡回展という、言葉は悪いですが、展覧会のバックで、その中に国宝が入っています、重文が入っています、というものは普通ありません。社内では、かえって「大丈夫なの。本当に実現させてもらえるの」と心配する声もありました。

——そんなおいしい話があるのかと。

佐々木 メリットでいえば、所蔵者さんと

近世絵画もかなりあって、これこれの作品これこれの作品と、資料を見せられました。そういうことなら、九博で一度やった展覧会をそのまま継承するのもつたいない。仏教美術と近世絵画と両方あった方がより多くの方々が楽しめるでしょうし。そうしたやりとりをする中で、最終的な形に企画の内容を変更していきました。

の交渉においても、私ども新聞社だけで「展覧会をしたい」とうかがっても難しい面があるのですが、寄託先の学芸員さんから、「こういう企画で、こういう手順で」と説明いただき、「もちろん、その展覧会には自分も必ずついて回って、展示の指導もします」とお話しいただくと、スムーズに進みます。それらがおよそ決まった段階で、展示していただく各館に諮り（はか）ました。

——それがいつごろですか。

井上 平成22年の11月に企画書を持ってきてくださったっているんですよ。じゃあ、やりましようとなつて、23年度に入ると、およその出品リストをつくり始めました。

——その時点では開催館はまだ決まっていないんですか。

井上 まだ決まっていません。どういふものが来るか、出品リストがないことには開催館側は判断できませんから。そのためリストづくりですが、最初からしぼるといろいろ不都合が出てくるので、かなり余裕を持たせたリストをつくりま

す。それで開催を決めた館の側から、自館の性格や活動内容に合わせて、「どうしてもこれを追加したい」、「申し訳ないが、これ

は結構です」といった希望が出されて、調整されます。

——開催館はどのように。

井上 九州地方を除いた地域で、毎日新聞社さんから声をかけてもらいました。

佐々木 3館ともひと月以内で即答でした。お声掛けして、これほど楽しいことはなかったです。こんなことはとても珍しくて、だいたい早くてひと月、遅いと半年ぐらい待たされるんです。それぞれの館で年間の予算が決まっていますので、弊社からご提案しても、他のラインナップが決まらないと、予算立てができませんから。だいぶ待たされて、その間に他の新聞社からの企画を気に入って、そっちにということもあるでしょうし。

特に島根県立古代出雲歴史博物館は、以前から自分のところでぜひ琵琶湖文化館収蔵品の展覧会をしたいと思っておられたそうです。けれど、実現するにはすごく予算がかかる。単独企画ではとても無理だとお考えだったところに、今回の巡回展をご提案したものですから、「うちは絶対やりま

す」というご返事を最初にいただきました。——それ以前にも、出雲とは何か関わりがあったのですか。

井上 はい。平成19年にオープンをした新しい博物館ですが、平成22年、23年の2年続けて、当館から作品をお貸ししているんですよ。

上野 重文の絵画ですね。

井上 立地からしても、出雲大社の横にあって、神道美術を一つの活動テーマにされており、当館との共通性もありますので。

——なるほど。静岡市美術館の場合は、田中豊稲館長が毎日新聞社のOBの方だそうですが。

佐々木 そうです。あちらも平成22年に

滋賀県立琵琶湖文化館収蔵品の県外における公開

| 開催年             | 開催期間                            | 会場／主催                                                                                    | 展覧会名称／出品作品数／入館者数                                                                                                          |
|-----------------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成22年<br>(2010) | 6月11日(金)<br>～9月5日(日)            | 九州国立博物館<br>(福岡県太宰府市)<br><br>九州国立博物館・福岡県・<br>滋賀県立琵琶湖文化館・滋<br>賀県                           | <b>湖の国の名宝展</b><br>—最澄がつないだ近江と太宰府—<br>(九州国立博物館開館5周年、滋賀県立琵琶湖文化館開館50周年)<br><br>■出品作品数：57件 (うち国宝3件、重要文化財33件)<br>■入場者数：8万4322人 |
| 平成23年<br>(2011) | 12月20日(火)<br>～2012年<br>2月19日(日) | 韓国国立中央博物館<br>(韓国ソウル特別市)<br><br>文化庁・滋賀県・九州国立<br>博物館・韓国国立中央博物<br>館                         | <b>日本 仏教美術</b><br>—琵琶湖周辺の仏教信仰—<br><br>■出品作品数：59件<br>(うち国宝4件、重要文化財59件)<br>■入場者数：5万2316人                                    |
| 平成24年<br>(2012) | 9月8日(土)～<br>11月25日(日)           | 三井記念美術館<br>(東京都中央区)<br><br>三井記念美術館、滋賀県、<br>滋賀県立琵琶湖文化館、朝<br>日新聞社 協賛：東レ、三<br>井不動産          | <b>琵琶湖をめぐる<br/>近江路の神と仏 名宝展</b><br><br>■出品作品数：118点<br>(うち国宝6点、重要文化財118点)<br>■入場者数：5万7381人                                  |
| 平成25年<br>(2013) | 1月2日(水)～<br>2月11日(月・祝)          | 静岡市美術館<br>(静岡県静岡市)<br><br>静岡市、静岡市美術館 指定<br>管理者(公財)静岡市文化振<br>興財団、滋賀県、滋賀県立琵<br>琶湖文化館、毎日新聞社 | <b>近江巡礼</b><br><br>■出品作品数：81点<br>(うち国宝2点、重要文化財25件)<br>■入場者数：1万1256人                                                       |
|                 | 7月12日(金)～<br>8月25日(日)           | 仙台市博物館<br>(宮城県仙台市)<br><br>仙台市博物館、TBC東北放<br>送、河北新報社、滋賀県、<br>滋賀県立琵琶湖文化館 企<br>画協力：毎日新聞社     | <b>近江巡礼</b><br><br>■出品作品数：79件<br>(うち国宝2件、重要文化財28件)<br>[開催中] 10ページ参照                                                       |
| 平成26年<br>(2014) | 3月28日(金)～<br>5月11日(日)           | 島根県立古代出雲<br>歴史博物館<br>(島根県出雲市)<br><br>島根県立古代出雲歴史博物<br>館、滋賀県、滋賀県立琵琶<br>湖文化館、毎日新聞社          | [準備中]                                                                                                                     |

オープンした新しい館です。文化庁のOKもいただいて、国宝や重要文化財を展示できる施設ではあるのですが、まだそれほど実績がなかったたので、ちょうどよいタイミングだったと思います。

——そして、もう一つが仙台市博物館。この館が決まったのは、東日本大震災より前

ですが、後ですか。

井上 会場が決まったのは、前ですね。実際に動きだそうとしている時に震災が起こったんです。それぞれ所有者さんにお願いにうかがったのは、地震発生後だったのですが、どこも、「大丈夫か」とか「不安だから、出品をひかえたい」といったこと

は、一切おっしゃらなかったです。むしろ、「お役に立てるのであれば」というようなことを言うてくださる所が多くて。

お寺さんや神社さんは、ある意味、公共性を持った組織で、社会的に果たさなければいけない役割の中に慈善事業を意識されていて、被災地で仏像などを公開すること

もそうした一環ととらえておられる方もおられました。

それは、ありがたいですね。タイトルの「近江巡礼 祈りの至宝展」に、「巡礼」、「祈り」といった語が使われているのは、震災からの復興に向けた願いも込めら



## 文化庁から許可がもらえたのは、これまでの経験と信用の積み重ねのおかげ

館が決まると、次はどんな作業になるのですか。

佐々木 巡回館が決まると、会場館の学芸員の皆さんに一度琵琶湖文化館にお集まりいただきました。最初のリストが割に余裕を持たせたりストだったので、3館の希望を調整して、これを出す、あれは出さないうちのスペースでは、これ以上入らないからといった意見を聞きます。

井上 最終的な判断は当館ですが、巡回館との間の調整は全部、毎日新聞社さんがなさいます。

佐々木 今回は図録もつくっているのですが、その製作も進めます。新聞社の事業部員の仕事は、所蔵者さんとの間、学芸員さんとの間をつなぐ媒体役が多いですね。

図録執筆や展示解説には、作品の調査が必要になってくるので、何日間か琵琶湖文化館にみんなが集まりました。そこで図録の執筆分担も相談しました。

この時期には、原稿を集めて、印刷会社とやりとりしてといった出版社のような仕事もします。他には、輸送業者はどうしますか。保険はどうしましょうかとか、契約関係もすべてこちらですね。

井上 特に今回は指定品が多いので、文化庁に相談する必要があり、佐々木さんにも同行していただきましたね。移動方法は何

れたのですか。

佐々木 仙台の場合はそれがありませんし、出雲は神々のいるまちであること。静岡は新しい館で、これから発展していくという祈りも込めています。3館それぞれの気持ちで込められた語といえます。

で、誰がついていって、こういう体制でやりますといったことを、細かく細かく文化庁とやりとりをしました。

——国宝・重文を含む巡回展だと、何を求められるのですか。

井上 安全に輸送して、展示・公開して、最後まで持つて帰ることができるという体制です。また、作品に負担をかけないことが基本ですから、国宝、重要文化財は最大60日間しか公開できません。それを守ったスケジュールの割り振りなど、いろいろな文化庁と相談するんです。こういった巡回展で、これだけ指定品が出る展覧会が本当ではないので、文化庁側は、そう簡単に「よるしい」とはおっしゃらない。

——巡回展でこれだけの数の重要文化財が出るのは珍しいのですか。

井上 そうなんです。他館に持つて行く巡回展で、これだけの数の指定品が出るというのは珍しいです。

佐々木 ないですね。

——ないですか。

井上 本当じゃないです(笑)。だから、複数の人から聞かれたんですよ。「どうやって、これだけ指定品のある展覧会を文化庁さんからOKを取ったのか」と。

——休館しているから、ちょっとかわいそうだしとか。

佐々木 いや(笑)、それはありません。

井上 そういう同僚論では無理です。当館の経験と信用の積み重ねからだと思います。ちょうど平成23年12月から翌年2月にかけて韓国国立中央博物館で開催された展覧会で、文化庁と一緒に仕事をさせていたことも大きかったのではないかと。

——そうでした。あれは文化庁の「海外古美術展」として開催されたんですね。

井上 要するに、事前に当館の働きぶり、ちゃんと把握してくださったのと、作品の状態も、ご存じのものがあつたので、すんなり進めたのだと思います。それは本当にありがたいことでした。

佐々木 今回、「どうしてうちに声をかけてくれなかったの」とおっしゃる館もあり、もっと巡回館の数を増やしたかったぐらいなのですが、文化庁や所蔵者さんにOKをいただくには、3会場が限界だろうということ、今回はひかえました。

こうした巡回展に対するニーズは非常にあります。1館単独でやるには、予算がかかります。

井上 仏教美術などを扱おうとすると、通常の倍以上、どうしてもかかってしまう。

——何が違うんですか。

井上 輸送にかかる手間や材料代もろもろ。

佐々木 入れる木箱からつくるんですよ。

井上 立体物の場合、ものすごく大きい箱が必要で。

——一つずつ特注なのですか。

井上 そうです。それぞれの大きさと形に合わせてつくってもらうので。

佐々木 軸などは、くるくると巻いて箱に入れてしまえば、割に問題ないのですが、立体は重ね置きもできず、仮に4トトラックなら、その荷台の面積だけにスペースが限定されます。

# 「近江巡礼 祈りの至宝展」出品文化財の一部

重要文化財  
奈良時代 聖衆来迎寺〔大津市〕



重要文化財  
平安時代 正法寺〔大津市〕



重要文化財 地藏菩薩立像  
平安時代 東南寺〔近江八幡市〕



重要文化財 楼閣山水図（右隻） 曾我蕭白筆  
江戸時代 近江神宮〔大津市〕



滋賀県指定文化財 叡山図 曾我蕭白筆  
江戸時代 琵琶湖文化館〔大津市〕



滋賀県指定文化財 東王父西王母図（右隻） 海北友松筆  
桃山時代 浄信寺〔長浜市〕

## 出品資料の輸送（平成 22 年、九州国立博物館「湖の国の名宝展」でのようす）



① 梱包作業は、学芸員の細かな指示に従って、美術品専門の輸送業者が行います。



② 箱は「トライウォール」と呼ばれる頑丈な段ボールでできています。輸送中に動かないように、多くの目でチェックしながら詰め物をして梱包します。



③ 美術品専用トラックの荷台に積み込んで出発。なるべく衝撃を与えないよう、運転にも細心の注意が払われます。

井上 うまく考えて、4トトラック2台なら2台で収まる梱包量になるようにしていただくんです。

すごい手間ですね。向こうへ行って無事終わって帰ってくるまでは心配だし。

井上 はい、本当にそうです。

佐々木 展示のときも、撤収のときも、文化館の学芸員さんに必ずづいてもらって状態を確認するというのは必要なんです。井上 だから、展覧会ってチームなんです。よ。私たちだけではできないし、私たちと毎日新聞社さんだけでもできなくて、相手の会場の館の人、輸送に携わる人、皆が同じ方向を向いて動かないと、最終的に一番リスクを負うのは、文化財自体なので。



## ポスターやチラシ、展示の仕方にも各館のカラーが出ていておもしろい

3館のうち、静岡は終了しましたが。

佐々木 はい。市の美術館でこうした内容の展覧会が行われたというのは、実績としても、認知度の面でも大きかったようです。その後、国宝や重要文化財が展示できるような企画が続いていますので、彼らの祈りは通じたというか。

井上 これまでは静岡県内で、こういう内容の展覧会はあまりなく、県民の間にも待望感があつたそうです。

そして、いま仙台展が準備中（インタビュー時）ということですね。

井上 仙台市博物館は、3館の中では一番歴史がある老舗の博物館になります。古い美術品も普段から展示されており、仙台藩の大名家関係など、バラエティに富んだ企画展をなさる、とても実力のある館ですから、チラシも安定感のある、やっぱり老舗らしいものが出来上がりました。

チラシに使われている2点は、結構オリエンタルなイメージがありますね。

井上 静岡のチラシはポップな要素もあるデザインでしたから、全然印象が違いますよね。ポスターやチラシは各館でおつくりになるので、館ごとのカラーが出ていておもしろいです。それから仙台は政令指定都市なので、広報ツールがすごく充実しています。実行委員会が放送局や新聞社で構成されて、テレビCMなども流してもらっているんです。世界遺産・平泉のイメージソングなども手がけているミュージシャン、姫神さん（ひめがみ）によるテーマ曲もつくられていて、それは、力が入っていますね。

井上 たぶんどの巡回展もそうだと思う

のですが、出る作品はほぼ同じでも、それが各会場館のもとと持っているカラーとどういふふうマッチングして、どういふふう表現されるかで違いが出ます。

それは展示の仕方についてもですね。

井上 そういう意味では面白いと思いますよ。静岡市美術館は新しいものの、いわゆる現代美術を中心に公開しておられる館です。で、そういうところで、古いものを展示するとうなるか、勉強させてもらったところがあります。

仙台さんの場合は、オーソドックスな老舗なので、そこで展示すると、どういふふうになるのか。最後の出雲さんも新しく、展示方法や照明がこつたものになると思っているので、それも楽しみです。

先ほど、展覧会の目玉の一つになった、曾我蕭白の作品のことがお話に出ましたが、他に来館者が注目した作品という。

井上 蕭白以外に、伊藤若冲（いとうわく）の作品「鳥禽図」も実物が外で展示される機会がほとんどなかったもので、これ狙いの方もいらっしゃると思います。今回留意したのは、これまであまり外に出ていないものを見ていただくことでした。例えば修理後初公開のものや、九博でも韓国でも出ていない、新しい要素を出すようにしました。九博も韓国も行った方でも、「こんなの見たことない」とおっしゃっていただけよう。

それから文化館の収蔵品に対する驚きだけではなく、滋賀県が文化財の宝庫だという、本当にベーシックな部分に対して驚きを持って迎えてくれた入場者もたくさんおられました。

すると、佐々木さんにとっても驚きがあつたんですか。これは初めて見たとか。

佐々木 ありましたね。今回展示される海北友松（うみきたともまつ）の屏風「東王父西王母図」にしても存在は知っていましたが、実際に見るのは初めてでしたし、驚きの連続でした。

休館した後で、九博が決まり、韓国での文化庁の展覧会が決まり、東京都心の三井記念美術館さんでも展覧会があり、今回の巡回展と、本当に精力的に活動しておられます。たぶん文化館さんは、すごい忙しいんですよ。休館していながら。

上野 そう、休館してからの方が忙しい。

井上 でも、そのおかげで、いろんな人と出会えて、いろんな人に見えていただけて、すごく活動の幅が広がったように思います。

佐々木 全国の館が、自分のところに声がかかるのを待っているんですよ。先日アメリカの博物館の学芸員さんと話す機会があつたのですが、琵琶湖文化館の展覧会は、どうやってつくつたのと聞かれました。海外の方が注目するぐらいですから。

井上 自分で言うのもおかしいですが、県外、国外に対するPR貢献度という点では、滋賀県の施設で当館が一番がんばっているかもしれません。地域の魅力を発信するという面で、私はひそかに収蔵品を「観光大使」と呼んだりもするんです。実物の持っている迫力というのは何ものにも代えがたいものがありますので。

7月に入ると梱包作業が始まるようですが、上野さんはまだ力仕事をなさるんですか。

上野 他におりませんから。その技術の継承も手遅れにならないうちに考えてもらわなければいけない問題です。

本日はお忙しいところ、興味深いお話をありがとうございました。

# 打下古墳の被葬者

高島歴史民俗資料館学芸員  
白井忠雄

平成13年（2001）秋、琵琶湖西岸中央に位置する白鬚明神崎の北山麓（高島市打下）で、上水道排水施設工事が行なわれていました。11月7日早朝、工事現場から石棺が現れ、棺内から人の頭蓋骨が発見されました。ただちに、発見地点は発掘調査に切り替えられ、約1ヶ月にわたる調査が実施されました。調査の結果、この古墳の年代は古墳時代中期。主体部は箱形石棺で、棺内および天井石の内側は赤色顔料が塗られてありました。副葬品としては、鉄刀1本・鉄剣1本それに伴う鹿角装具が納められていました。また棺外の西側には、鉄鏝が14本程度1束にして置かれてありました。

出土古人骨の調査については、骨考古学の権威である京都大学の片山一道先生に依頼しました。被葬者は小柄な体形で、25〜50歳の男性であろうと鑑定され、頭蓋骨から写真にある復顔がされました。顔の特徴は、のっぺりした顔立ちで現代の関西圏に住む中年男性のルーツの一つとして考えられます。出土人骨の名称は出土地名を取り「打下人」と呼んでいます。

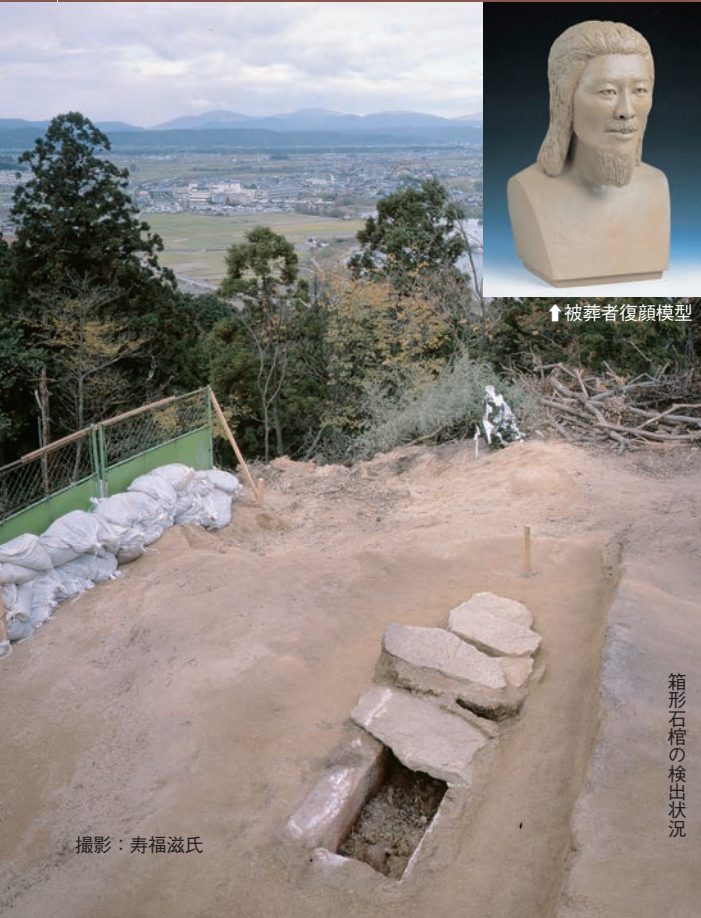
古代遺跡からこのような古人骨が発見されることは、非常に稀なことであり貴重です。と、思っていたら、平成22年初夏、大津市神宮町・宇佐山古墳群第13号墳の箱式石棺（古墳時代中期前半）から、赤色



打下古墳



↑被葬者復顔模型



箱形石棺の検出状況

顔料が塗布された頭蓋骨が発見され、大変驚きました。滋賀県内における原始・古代の出土人骨の資料は、縄文時代の磯山城遺跡【成人男性2体。米原市】・粟津湖底遺跡【人骨出土。大津市】・滋賀里遺跡【土壙墓で48体・甕棺墓で17体内新生児1体・幼児2体。大津市】・石山貝塚【5体内成人男性2体・女性2体・小児1体。大津市】、古墳時代の塚原古墳群【2号墳で7体内女性1体・3号墳で5体。米原市】などが検出されています。これらの古人骨を復顔する機会が巡ってくれば、我々現代人は、原始・古代人をもっと身近に感じることができるとでしょう。ぜひ、高島歴史民俗資料館を訪れていただいて、「打下人」と交信してみてください。

## 中国近代絵画にみる仏たち

開催中～8月25日(日)

観峰館

19世紀末期から20世紀初頭にかけての中国絵画では、理想や幸福を現実の世界に求め長寿を願う中国の人びとの幸福観を背景に、長寿の象徴である仏・神仙が人気の画題として多く描かれました。日本人がイメージする神仏とは大きく異なり、人間味あふれる姿で描かれた作品の数々を紹介します。

会場：展示室1

入館料：一般500円

高大生300円

中学生以下無料

※ HP 割引あり [www.kampokan.com](http://www.kampokan.com)

休館日：月曜（祝日の場合は翌日）

お問い合わせ先：TEL 0748 (48) 4141



呂鳳子 甲戌造仏図

民国 23 年(1934)

(観峰館蔵)

## 珠玉の大津絵

町田市博×大津歴博コレクション

7月26日(金)～9月1日(日)

大津市歴史博物館



藤娘

(町田市立博物館蔵)

東日本の公立館で最も充実した町田市立博物館の大津絵コレクションを、大津歴博収蔵品と競演する形で一挙公開。貴重な初期の仏画をはじめ、ユニークな鬼や雷、動物のキャラクターたちが目白押しの、充実したラインナップです。

休館日：月曜

入館料：大人800円

高大生400円

小中生無料

お問い合わせ先：

TEL 077 (521) 2100

羽柴秀吉天下統一への足跡③  
秀吉に備えよ!! 羽柴秀吉の中国攻め

開催中～9月1日(日)

長浜市長浜城歴史博物館

長浜城再興30周年記念事業として、羽柴秀吉の前半生にスポットを当てた特別企画の第3回。攻めた秀吉だけでなく、迎え討った摂津・播磨・備中などの武将の視点からもこの戦いを描き出します。

入館料：大人400円、小中学生200円

休館日：会期中無休

お問い合わせ先：TEL 0749 (63) 4611

## 学童疎開のモノ語り

—大阪から子どもたちがやってきた—

開催中～9月29日(日)

滋賀県平和祈念館

疎開を経験した子どもたちや、受け入れた滋賀の人びとの体験と資料から、子どもの暮らしを通じた戦時中の出来事を伝えます。

休館日：月曜・火曜(7/18～8/31の間は無休)

入館料：無料

■戦争体験者お話し ※要事前申込み

場所：滋賀県平和祈念館 1階 地域交流室

8月11日(日) 13:00～15:00

「戦争時代を生きた一教師の体験」

碓本綾子さん(87歳)

8月12日(月) 13:00～15:00

「幼き日のくらしと米原への空襲」

松村武温さん(76歳)

8月13日(火) 13:00～15:00

「滋賀での疎開生活と大阪大空襲」

吉田房彦さん(77歳)

8月14日(水) 13:00～15:00

「人間魚雷『回天』の搭乗員となって」

近藤伊助さん(87歳)

8月15日(木) 10:00～12:00

「終戦の詔勅放送のあと、本土決戦を覚悟」

荒木俊夫さん(84歳)

申込方法：氏名、住所、電話番号を下記あてに、電話または郵送、FAX、E-mailでお申し込みください。申込締切：各回前日

お申し込み先：〒527-0157 東近江市下中野町431

TEL 0749 (46) 0300 FAX 0749 (46) 0350

E-mail [heiwa@pref.shiga.lg.jp](mailto:heiwa@pref.shiga.lg.jp)滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美  
近江巡礼 祈りの至宝展

開催中～8月25日(日)

仙台市博物館

近江の仏教美術や神道美術を守り伝えるうえで大きな役割を果たしてきた滋賀県立琵琶湖文化館の寄託品・収蔵品から、日本の文化が集約されたような至宝をご紹介します。

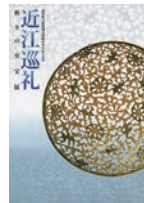
休館日：月曜(ただし8月12日をのぞく)

観覧料：一般1100円、高大生500円、小中生200円

住所：宮城県仙台市青葉区川内26

〈仙台城三の丸跡〉 〒980-0862

お問い合わせ先：TEL 022 (225) 3074



「近江巡礼 祈りの至宝展」

図録

編集・発行／滋賀県立琵琶湖文化館・毎日新聞社

定価2100円

ご購入方法：現金書留で図

録代金と送料分の切手を仙

台市博物館宛にお送りください(書名を明記)。詳しくは仙台市博物館ミュージアムショップ(レストラン三の丸)まで。TEL 022 (221) 2777

仙台市博物館

近江巡礼 祈りの至宝展

ご招待券

プレゼント

2枚1組  
×5組

応募方法 お名前、ご住所、ご連絡先(電話番号もしくはEメールアドレス)をご記入のうえ、下記まで、FAXまたはE-mailでお申し込みください。

- ・会場までの交通費は当選者様のご負担となります。
- ・応募者数が5組10名様になり次第、終了。
- ・当選発表は、招待券の発送をもって替えさせていただきます。

サンライズ出版「Duet」編集部

「近江巡礼 祈りの至宝展」係

FAX 0749(23) 7720

E-mail: [info@sunrise-pub.co.jp](mailto:info@sunrise-pub.co.jp)



論考◎ルーツを探る 柴屋町花街の繁栄

## 大津絵踊り

渡邊文夫 著

B6判並製本 総76頁 非売品

問合先 大津市黒津2-6-7 (著者)

大津絵の画題をよみ込んだ郷土芸能「大津絵踊り」は、花街で生まれ、のちに全国各地で替え歌が流行した。面や唄、踊りを紹介しながらその歴史をたどる。(2013. 3. 1刊)



## 猿木区誌

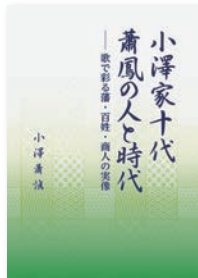
猿木区誌編集委員会 編

B5判並製本 総272頁 非売品

問合先 犬上郡多賀町猿木206 (若林成欣)

愛知県刈谷市在住の猿木敏生氏が自身の姓のルーツを探った資料「宇多源氏猿荻・猿木由緒」などを抜粋しながら、古代から現在までの多賀町猿木地域についてまとめた区誌。猿木氏による資料も復刻掲載している。

(2013. 5.20刊)



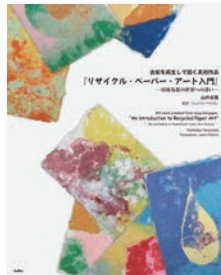
## 小澤家十代 蕭鳳の人と時代 —歌で彩る藩・百姓・商人の実像—

小澤蕭慎 著

A5判上製本 総178頁 定価1575円

近江国野洲の豪商農小澤家は、下野国を拠点に醸造や金融業を営む近江商人。幕末を生きた10代当主小澤蕭鳳と、大名財政や農政との関わりなどを、同家文書と蕭鳳の歌集をもとに子孫である著者が詳述。(2013. 5.18刊)

書店で  
発売中



## リサイクル・ペーパー・アート入門

—以塵為麗の世界への誘い—

山仲良隆 著

AB判並製本 総32頁 定価882円

新聞折込広告や包装紙などのゴミが、華やかなポストカードや抽象画に変身。古紙を使って誰もが手軽にできるリサイクル・ペーパー・アートの世界へ誘う入門書。オールカラーの写真・図解入り。全文英訳付き。

(2013. 7.10刊)

書店で  
発売中

## 真宗の美

—愛荘町の信仰と文化—

開催中～9月1日(日)

愛荘町立歴史文化博物館

阿弥陀如来立像や親鸞聖人絵伝など、愛荘町の浄土真宗系寺院に伝わる美術資料を中心に展示します。毎年5月7日に中山道愛知川宿を通過する「蓮如上人御影道中」についても紹介。



吉崎浦鑿図 (大谷大学博物館蔵)

入館料：大人300円、子供150円

休館日：月曜・火曜

■ギャラリートーク「近江の仏教絵画」  
7月28日(日)

講師：石丸正運 (愛荘町立歴史文化博物館館長)

会場：愛荘町立歴史文化博物館企画展示室

お問い合わせ先：TEL 0749 (37) 4500

## 世界が賞賛した水口細工

開催中～10月2日(水)

甲賀市水口歴史民俗資料館

水口細工は東海道水口宿の名産品の一つ。ウィーン万博で受賞し、海外へさかんに輸出されました。その歴史と失われた製作技法を復興する歩みを紹介します。



水口細工(甲賀市蔵)江戸時代に水口を治めた大名加藤家伝来と考えられる箱。水口細工の代表的な意匠が織り込まれています。

休館日：木曜・金曜

入館料：大人150円、小中学生80円

※水口城資料館との共通券あり

お問い合わせ先：TEL 0748 (62) 7141



書店で  
発売中

## やってよかった集落営農 ホンネで語る実践20年のノウハウ

上田栄一 著

A5判並製本 総136頁 定価1575円

全員参加は無理、8〜9割の参加で十分。  
細かな規約作成は後回しでよい。立ち上げに  
補助金はいらぬ——20年の実践をもとに、  
集落営農組合の設立・運営のポイントを伝授。



品切れ

## 滋賀県議会事務局長に任命する

加藤誠一 著

四六判上製本 総208頁 定価1470円

滋賀県庁職員として奉職した40年を記した  
自分史。平成24年4月県議会事務局長に任命  
された著者が、定年まで1年を残して下した  
新たな決断。仕事を通じた交友や地域活性  
化、地方議会のあり方などにも私見を述べる。

表紙写真 重要文化財 千手観音二十八部衆像（部分） 鎌倉時代

大清寺〔高島市〕〔巡回展「近江巡礼 祈りの至宝展」に出品〕

編集後記 校正の打ち合わせに琵琶湖文化館へうかがった7月上旬、ちょうど仙台市博物館の酒井昌一郎学芸員が搬出作業のため来館しておられました。「あるのが当たり前になってしまうと、あることのありがたさが忘れられてしまいます。ほっておけなくなっていたかもしれない文化財を50年以上守ってこられた文化館の活動は本当にすばらしい」と酒井さん。 ㊦



書店で  
発売中

## 武村正義の知事力

関根英爾 著

四六判並製本 総224頁 定価1260円

「最もやりがいがあったのは国会議員時代  
より滋賀県知事時代」と語る武村正義元大蔵  
大臣に、知事時代についてインタビュー。い  
ま求められる「ほんものの知事」とは？



書店で  
発売中

## 琵琶湖周辺の山を歩く

長宗清司 著

A5判並製本 総224頁 定価1890円

滋賀県を中心に未開の尾根や里山に踏み入  
り、昔ながらの風情が残る低山に挑んだ記録。  
日本百名山にも選ばれない、標高1000mに満  
たない里山の新しいルートを開拓、自然と歴  
史を探訪する。地図付き全63コースを紹介。



書店で  
発売中

おうみ  
淡海文庫51

## 湖面の光 湖水の命

〈物語〉琵琶湖総合開発事業

高崎哲郎 著

B6判並製本 総198頁 定価1260円

関西経済のさらなる発展と、滋賀の地域インフラ整備、  
琵琶湖の洪水対策と水質保全など、多面的なニーズに  
応えた〈世紀の大プロジェクト〉の全貌をたどる。



書店で  
発売中

## 秀吉に備えよ!!

—羽柴秀吉の中国攻め—

長浜市長浜城歴史博物館 編

B5変形並製本 総134頁 定価1890円

攻める秀吉と、迎え撃った摂津・播磨・因  
幡・備前・備中の武将、両者の視点から、秀  
吉躍進の契機となった「中国攻め」の全体像  
を描き出す初の試み。

Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社 Duet 編集部

TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720  
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先